

一般質問の要旨 (令和8年6月定例会)

【一般質問】

	議員名	所属会派	質問形式	登壇予定日
1	今西 克己	新政クラブ議員団	一問一答	6月15日 (月)
2	南 正弘	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
3	小杉 悦子	日本共産党議員団	一問一答	
4	仲井 玲子	超党・市民ファースト議員団	2 分割	
5	上羽 和幸	公明党議員団	一問一答	
6	眞下 隆史	新政クラブ議員団	一問一答	
7	水嶋 一明	自民党鶴政クラブ議員団	一 括	
8	伊田 悦子	日本共産党議員団	一問一答	
9	廣瀬 昇	超党・市民ファースト議員団	一問一答	6月16日 (火)
10	松田 弘幸	公明党議員団	一問一答	
11	野瀬 貴則	新政クラブ議員団	一問一答	
12	上野 修身	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
13	小西 洋一	日本共産党議員団	3 分割	
14	高橋 秀策	超党・市民ファースト議員団	一 括	
15	杉島 久敏	公明党議員団	一問一答	
16	眞下 弘明	新政クラブ議員団	一問一答	
17	川口 孝文	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	6月17日 (水)
18	西村 正之	超党・市民ファースト議員団	一 括	
19	小谷 繁雄	公明党議員団	一問一答	
20	田畑 篤子	新政クラブ議員団	一問一答	
21	谷川 眞司	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
22	福本 明日香	超党・市民ファースト議員団	一問一答	
23	山本 治兵衛	新政クラブ議員団	一問一答	
24	尾関 善之	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	

【一般質問】

1 今西 克己 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 ツキノワグマ対策について

昨年9月、鳥獣保護管理法が改正され、ツキノワグマもイノシシ、ニホンジカと同様に指定管理鳥獣に指定され管理対象になった。この指定により、より集中的にかつ広域的に管理する必要がある。その管理対象となったクマを捕獲しても錯誤捕獲になるのか、また、同じく法改正により緊急銃猟を実施することができるようになった。本市における緊急銃猟に対する即応体制の整備状況等について問う。



2 由良川下流部輪中堤概成後の現状等について

令和4年に舞鶴市域管内由良川下流部の緊急治水対策が概成した。その下流部6輪中堤の現状について、また、輪中堤を整備したことから幹線道路、生活道路の現況も従来の道路環境と変わってきており、緊急時に輪中堤の天端を活用した通行も有効と考える。輪中堤整備に伴う出水時の道路通行環境の改善について問う。

3 大庄屋上野家について

大庄屋上野家は、江戸時代後期に建築された主屋、長屋、蔵からなる建築物で、地域に根差した伝統と歴史文化を育む施設として幾多の変遷を経ながら現在に至っている。しかしながら近年において、その管理運営を外部に委託しているが、令和5年以降その運営が長続きせず、いずれも数ヶ月で閉鎖状態となっている。上野家の現状と今後について問う。

2 南 正弘 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 ムスリムについて


全国各地で問題となっているイスラム教徒（ムスリム）問題について、食事（給食）の取り扱い、ヒジャーブへの対応、土葬の3項目について、現在そして将来に渡っての本市の対応を問う。




2 市内の景観について

除草、舞鶴医療センター前の桜並木の維持管理について市の対応について問う。

3 小杉 悦子 議員（日本共産党議員団） [一問一答]

- 1 イラン情勢下、深刻な暮らしや営業への影響と支援策について
イランへのアメリカとイスラエルの国際法違反の攻撃は、これが引き金となってホルムズ海峡に実質的な封鎖となり、原油・ナフサ不足による生活や営業に深刻な実態が広がっている。市に実態調査や相談窓口の設置、国と府に緊急対策要望と、市の支援策の検討を求めることを問う。
- 2 教育環境の在り方について
「舞鶴市学校規模適正化ビジョン」では、「小・中学校ともに全学年が2学級以上で、クラス替えが可能な学校規模の確保」とし、周辺地の小規模校を中心に適正規模に近づけることの賛否を速やかに検討する小学校7校があがっている。ビジョンの基準、地域の合意形成の進め方などを問う。
- 3 「防災ラジオ」のさらなる活用で災害時の伝達手段を充実させることについて
様々な災害時に、正確な情報を受け取る手段としての「防災ラジオ」の普及が欠かせないとする。防災行政無線と連携できるように市が整備を進めた。無償貸与している地域は、原子力防災でのPAZ地域と、津波被害が想定される大浦地域にとどまっている。無償貸与の地域拡大を求めることを問う。

4 仲井 玲子 議員（超党・市民ファースト議員団） [2分割]

- 1 「知の総和」の還流による組織力向上と社会教育の機能強化について
人口減少下で地域の「知の総和」を高める持続可能なまちづくりに向け、ベテラン退職職員の戦略的活用と公民館の機能強化を提案する。彼らの経験を若手育成や地域コーディネーターに活かして組織力を向上させるとともに、公民館へ配置して「失敗に寛容なゆるいコミュニティ」を創出し、市民が主体的に地域課題へ取り組める環境を整えることについて、市の見解を問う。
- 2 不登校児童生徒の「心の回復」を支える環境づくりと社会教育の役割について
不登校児童生徒の支援の目標は登校ではなく「心の回復」と「主体的な社会的自立」にある。文科省の「COCOLOプラン」でも休息の必要性が示されているが、深く傷ついた子供に勉強を急かすことは引きこもりの長期化を招くため、大人が心の回復期を正しく理解することが極めて重要である。社会全体の「学校ありき」という意識を変え、子どもが安心して休息できる場づくりについて市の見解を問う。

5 上羽 和幸 議員（公明党議員団） [一問一答]

1 次期総合計画について

次期総合計画は少子高齢化のピークと想定されている2040年までの13年間に延長して策定するとしている。それは何故か。計画が長いと抽象的な目標になりやすいのではないか。「人口減少を改革の好機」と捉えているが、その趣旨を問う。また基本構想案は内容が多く、総花的ではないか。優先順位やビジョンが分かりにくくならないか問う。



2 北陸新幹線舞鶴ルートについて

北陸新幹線舞鶴ルートは、舞鶴の将来の発展を願い実現させたい。市長には頑張ってもらわなければならないが、要望活動で、実現をどのように受け止めているか。また市民に一層舞鶴ルート誘致を理解していただくため、舞鶴ルートが実現した場合の、市の費用負担について、市民が不安を抱くことがないように説明と見解を問う。

3 不登校の対策について

不登校は現代社会が抱えている重要課題だ。現在も不登校の子どもや家族の支援に努力いただいているが、子どもが安心して勉学ができる、持続可能な環境づくりが必要だ。課題を共有し対策を検討する協議会を設置いただきたい。不登校に効果の高いのが訪問支援だ。不登校の子どもに寄り添う訪問支援員を置いていただきたい。見解を問う。

6 眞下 隆史 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 ウズベキスタン共和国リシタン地区との姉妹都市提携について

2016年から始まった、舞鶴市とウズベキスタン共和国との交流は良い関係を継続しており、この度フェルガナ州リシタン地区との姉妹都市提携が決定した。戦争時の抑留や引揚げの歴史に加え先人先達の残した思いを受け継ぎ、お互いのリスペクトを更に受け継ぎ、交流を深める大切さや意義・今後の展開について問う。



2 近代化遺産を活かした目指す市の方向性について

令和8年3月に策定された「舞鶴市近代化遺産保存計画」を基に、市内に点在している近代化遺産をどのようにまちづくりに活用していくのか、事業の遂行にはそのために一番重要な市民理解の醸成が最重要となっていく。舞鶴市は、近代化の社会構造の恩恵により発展した事実を基に、今後どのように事業展開をされるのか問う。

7 水嶋 一明 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一括]

・ 図書館の再編について

新たに建設する中央図書館の役割、設けるコーナーや機能等の内容について、また、様々な事情で中央図書館にアクセスできない人、身近な場所で本や情報に触れたい人のために分館サービスを充実させることも重要である。市として考える分館や機能等、図書館を利用していない人々への機運醸成に向けた取組を問う。



8 伊田 悦子 議員（日本共産党議員団） [一問一答]

1 不登校支援としての、子どもの居場所、学びの場の条件整備について
全国的にも不登校は増加しており、本市においても例外ではない。対策として、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの増員。教育支援センターの新たな設置。フリースクールへの支援強化。これらを求める中で、基本的な不登校に対する理解を問う。



2 子育てに関する窓口の集約について

5月7日から、「子育て応援課」「乳幼児教育推進課」が中総合会館に移転。市長は「子どものことなら中総合会館へ行けば解決する」というが、出生届、小・中学校の入学・転校の手続きは中総合会館ではできない。全てができるようにすべき。移転されたことにより不便になった市民への対応を問う。

3 本市の平和の取組について

本市の平和の取組は「引揚げ史実を語り継ぐ」この活動を強調されるが、それだけでいいのかを問う。平和首長会議加盟自治体として、その意義を考えるならば、広く核兵器の廃絶の運動にも積極的にかかわるべき。平和記念式典への、児童・生徒・学生の参列はもちろん、舞鶴市としても参列すべき。加害・被害両面からの学習を通し、市民の平和力の強化に努めるべき。その考えを問う。

9 廣瀬 昇 議員（超党・市民ファースト議員団） [一問一答]

1 地域医療の再編と途切れのない救急・医療サポート体制の構築について
地域医療再編や医療DXに伴う市民の不安に寄り添う支援策を市に問う。
具体的には、①急病時の電話相談窓口（#7119）の普及推進、②マイナ救急導入下でカードを持たない市民への救急現場での適切な対応の周知、③システム障害に備えた紙の「お薬手帳」併用の重要性と啓発戦略の3点について問う。



2 認知症対策の深化と当事者主体の地域共生社会について

認知症基本法の理念に基づき、認知症当事者も支援側に回り主体的に活躍できる「チームオレンジ」の構築を本市でどう進めるか問う。また、偏見やプライドから「認知症カフェ」への参加をためらう当事者や家族に対し、心に寄り添い自然に支援の場へとつなぐ働きかけを市としてどのように行うか見解を問う。

3 のら猫不妊去勢手術費補助金の実績と持続可能な制度について

令和7年度に開始されたのら猫不妊去勢手術費補助金の実績を問うとともに、ボランティアの負担軽減や集団手術推進に向けた手続の簡素化など、制度の改善を求める。さらに、これら動物愛護施策を持続・拡大する財源として、ガバメントクラウドファンディングを活用し全国から資金を募る提案への見解を問う。

10 松田 弘幸 議員（公明党議員団） [一問一答]

1 環境客増加やイベントによるトイレ不足について

災害にも活用でき、イベント時のトイレ不足にも転用できるトイレトレーラーがある。トイレトレーラーの導入の是非を、購入するか・しないかだけでなく、レンタルや長期リースによる導入、広域連携やトイレネットワークの活用、イベント時と災害時との共用運用など導入する選択肢は多くある。様々な観点から検討を進めるべきではないか問う。



2 移動期日前投票所について

投票所までの距離や移動手段の制約などから、「行きたくても行けない」状況が生じる。この課題に対し、移動期日前投票所は、投票機会の公平性と利便性を高める有効な手段であると考え。実際に、移動期日前投票所の試行・実施は進んでいる。全域での実施が難しい場合でも、まずは試行（モデル）として実施することは可能だと考えるため試行実施を行う考えを問う。

3 東地区中心市街地エリアの回遊策について

境港市の水木しげるロードの視察では夜間照明により滞在時間延長につながっていた。舞鶴でも、夕刻以降に回遊が生まれることが、滞在時間延長、地域消費拡大につながると考える。夕刻以降の仕掛けとして、景観照明や夜間演出は有効な手段であると考えが、夜間回遊を促進し、滞在時間延長を狙うための市の取組について問う。

4 遊覧船業法改正に伴う市内事業者への安全対策支援と独自の補助制度創設について

「遊漁船業の適正化に関する法律」を大幅に改正され、「安全設備」の搭載が、船の検査タイミングに合わせて順次義務化される。業者に「過度な経済的負担」である。市が独自に上乘せして補助や補助金の申請手続、また利用定員の計算方法を京都府水産事務所や漁協等と連携し、相談・周知体制を強化する考えがないか問う。

11 野瀬 貴則 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 AIを活用した市政運営と弊害について

AIの進歩が目覚ましく、年単位ではなく月単位で新たなサービス、用途が登場している。この流れに遅れることなく対応できる体制について。一方でAIに頼りすぎることによって人として重要な思考・判断・調整がおざなりにならないか、誤情報に対するチェック体制を確認する。そして近い将来AI同士で議論の空洞化の懸念と対策について問う。



2 新たな地域コミュニティ構築で地域がどう変わるのかについて

なり手不足や負担感による自治会組織の疲弊、縮小化が加速していると感じる。多くの催し中止や、老人会・子供会など関係団体も解散するなどして、自治会組織の意義が問われつつある。市は新たな地域コミュニティ構築を計画しているが、自治会が疲弊する原因をどう把握しているのか。そして市の早急なビジョン策定と、解決策の提示について問う。

12 上野 修身 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 本市の災害状況について

災害列島とも表現をされる我が国において、地震、集中豪雨など、自然災害とともに、減少しないのが、火災・救急の事案である。本市の安全・安心なまちづくりを推進するために、災害時の対応力強化は、非常に重要な課題であると考えている。そこで、本市における、近年の火災・救急・救助件数と、その特徴について問う。



2 本市の消防体制について

消防団の現状は、少子化・高齢化・人口減少と、あわせて地域コミュニティの希薄化の影響もあり、全国的に消防団員のなり手不足・高齢化に直面している。令和5年4月から、20消防団を、市全体で一つの大きな消防団に組織改編されたが、改編後における消防団員数の推移と条例に定める定員に対する充足率などについて問う。

13 小西 洋一 議員（日本共産党議員団） [3分割]

1 本市の令和8年度人事について

令和8年度の本市人事においては、副市長とは別に、新たに「参事」が配置された。「参事」の位置づけについて市の見解を問うと同時に、新たに登用された吉田康人参事の本市に対する現状認識と課題、とりわけ鴨田市政についての評価について見解を聞く。さらに、吉田康人参事の経歴について市民の不安もあることから、その詳細について問うとともに「参事」の今後の在り方について問う。




2 データセンターとの共生について

本年1月、株式会社ユビタスの平工業団地への立地が明らかになった。「生成AI向けデータセンター」の新設に至った経過について問うとともに、現在、都市部で建設が急増している大規模データセンターの開発では、電磁波や騒音等「新しい公害」と言われる様々な問題が明らかになっている。市民の中に、これらへの不安もあることから、周辺環境への影響や住民理解などについて問う。


3 酷暑から「市民の命と健康を守る」施策について

今夏は、昨年以上に暑い夏が予想されており、40℃以上を超える「酷暑日」も想定されている。酷暑・猛暑から市民の「命と健康」を守ることは、今日、行政の最優先課題となっている。さらに、国の省エネ対策と合わせて、エアコンの買い換え等について自治体の補助制度に関心が高まっており、補助制度を事業化する自治体も広がっていることから、この制度の事業化について市の見解を問う。


14 高橋 秀策 議員（超党・市民ファースト議員団） [一括]

- 1 ウズベキスタン共和国フェルガナ州リシタン地区との姉妹都市提携について
5月25日から29日まで舞鶴市訪問団がウズベキスタン共和国フェルガナ州リシタン地区を訪問し姉妹都市締結協定書を交換した今回の訪問団の趣旨・成果について問う。また、今後の取組についても問う。
- 2 中総合会館の子育て部署集約について
5月7日から、こども家庭しあわせ課、子育て応援課、乳幼児教育推進課が中総合会館に集約され、これまで別々の場所で行っていた手続や相談が一カ所で行えるようになり便利になったことを受けての評価やメリットを生かした今後の取組について問う。
また、訪れる市民や職員が多くなることなどによる駐車場問題について問う。
- 3 まち案内・歩行者系公共サインについて
概ね24年経過している歩行者用公共サインについて、現状と管理状況及び今後。版面にQRコードを貼り付け、市のホームページや道案内・観光案内など可能とすることと多言語配信することについて問う。


15 杉島 久敏 議員（公明党議員団） [一問一答]

- 1 孤独・孤立対策について
無縁社会における身寄りなき高齢者への対策支援、社会的課題になりつつある「孤独死」防止について、今後どのような体制強化を図るのか、民生委員や社会福祉協議会だけでなく市民ボランティアで取り組む見守り体制、弱体化する地域のつながり強化を図るべく、人材育成を踏まえた講座の開設や緩やかなつながりとしてボランティア・サポーター組織の導入の考えを問う。
- 2 子どものSNS利用に関する被害対応策について
本市の小学生における被害状況の有無や推移、把握の程度、被害対応の現状、現段階での関係機関との協力による対応策、学校教育の場や地域における出前講座などの活用状況を問う。


16 眞下 弘明 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

- ・ 舞鶴市に所在する学校でのいじめについて
本市の小・中学校におけるいじめの実態把握の手法、現状について問う。あわせて、令和6年8月に改訂されたいじめの重大事態の調査に関するガイドラインの周知状況の確認と、令和8年度から新設された学校生活相談係の機能を活かし、具体的にどのような体制でいじめの未然防止や解決に取り組むのか、本市の方針を問う。


17 川口 孝文 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

- 1 中学校部活動の地域展開（まいかつ）の進捗等について
いよいよ2学期から中学校部活動の地域展開「まいかつ」が始まる。部活の地域展開は必要と考えておりスムーズな展開を期待している。その中で参加を希望する生徒が、送迎や経済的な負担から参加を断念することがあってはならない。そこで「送迎の負担」「経済的負担」「大会への参加」「地域クラブへの支援」について問う。
- 2 中学校給食について
保護者の声として、「給食時間が短時間で食べ切れない場合が多い。フードロスにもつながっているのではないか。」旨、聞き及んでいる。そこで本市中学校給食について「食品ロスの現状」「給食時間」「食育」について問う。
- 3 クマ対策の状況について
クマ出没期に入り全国で多くのクマの報道がされており、舞鶴メールでも最近だけで50数件の目撃情報が配信された。本市も対策を講じられてきたが「スピード感に欠けているのでは。」と感じているところもある。そこで、「今春からのクマ目撃等」「ICT技術導入等クマ監視体制の強化」「ゾーニングの進捗」「注意喚起看板設置」について問う。

18 西村 正之 議員（超党・市民ファースト議員団） [一括]

- ・ 北陸新幹線誘致について
北陸新幹線の誘致により、人流の創出と交流人口の拡大、観光振興と消費の拡大、企業立地、若者の定住促進が期待できると考える。そこで、誘致活動の現在の状況とより多くの市民の参画に向けた市の取組について問う。

19 小谷 繁雄 議員（公明党議員団） [一問一答]

- 1 学校における遊具及び体育館の運営管理体制について
本市における運動器具の老朽化や体育館使用に対する安全リスクと教育環境への影響を踏まえ、破損遊具の撤去や管理体制、整備の方向性について、また体育館の点検カードによる規則の見直しのほか、鍵の管理や予約手続の課題を踏まえた運用管理の改善について、今後どのような取組や考え方で改善を進めていくのか、その方向性について本市の見解を問う。
- 2 身寄りのない高齢者支援体制について
身寄りのない高齢者が増える中、入院・入所時の手続支援や緊急時対応、死後事務など家族機能の欠如による不安が広がっている。国は支援を法定の公的サービスとして制度化を進めており、市としても実態把握や相談支援体制、関係機関との連携、包括的相談窓口、社会福祉協議会との役割分担など、今後の具体的な取組や体制整備について、本市の見解を問う。

20 田畑 篤子 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 地域医療の動向について

4月からの、市内の医療体制の変化について市の認識と対応を問う。また京都府第二次医療圏としての近隣地域との連携を問う。次に、再編の進捗度と市の立ち位置、財源確保について問う。看護師確保については、市の現状把握の認識と医療センター附属看護学校閉校の影響と市独自の市内看護師確保対策を問う。



2 青少年の健全育成について

青少年の対象年齢とその現状と課題について、またその対応について問うが、具体的に薬物乱用防止対策について、予防対策と京都府（保健所）、警察との連携を問う。市の舞鶴市安全・安心まちづくり推進委員会の令和8年度取組事項での防犯対策、補導委員のパトロール廃止の理由と今後について問う。

3 JR東舞鶴駅前整備について

JR東舞鶴駅前整備が完成したが、整備デザインの説明不足と完成の工期遅れについての原因を問い、2000万円の令和7年度予算執行の内容について具体的に問う。また、事業名は、八雲北口線道路整備工事であり駅前を含む今後の整備計画について問う。

4 地域行事支援について

市の考える地域行事支援の考え方について問い、人口減少・高齢化でも継続し維持の努力をしている地域への士気を上げる支援となっているか、現状把握を含めて今後の計画を問う。また補助金交付の基準の見直しの必要性を問う。市の新たな集客10,000人を超えるイベントへの1,000万円の補助金制度の意義と予算算定の根拠を問う。

21 谷川 眞司 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 浪速橋について

市道八島通線の浪速橋は、老朽化した歩道橋が通行止めとなり、通学路であるにもかかわらず歩行者や自転車が狭い車道を通行する危険な状況となっている。また、交通量も多く接触事故も発生している。市民や通学する子どもたちの安全確保のため、復旧時期と周辺橋梁の損傷状況について問う。



2 地域と共に行う美化運動について

地域の景観や生活環境は、自治会など地域ボランティアによる清掃・草刈り活動によって支えられている。しかし、人口減少や少子高齢化により担い手不足が深刻化している。そこで、本市における地域美化活動の実態、市の支援内容や企業・学校等との連携状況、さらに今後の持続可能な環境美化体制づくりについて問う。

3 ドクターヘリ運休について

関西広域連合によるドクターヘリ2機の長期運休見通しを受け、舞鶴市における救急医療体制への影響を懸念する。現在の出動病院や搬送先、昨年度の出動件数・事例を伺うとともに、長期運休時の市の救急体制の考え方について問う。

4 不登校支援について

全国的に不登校児童生徒が増加する中、綾部市や亀岡市、京丹後市では、メタバースを活用した新たな支援が始まっている。本市における不登校児童生徒数の推移と現状の支援体制、さらに今後の不登校支援の方向性について、市の考えを問う。

22 福本 明日香 議員（超党・市民ファースト議員団） [一問一答]

1 有害鳥獣対策について

人口減少や高齢化が進む中、有害鳥獣による農林業被害は営農意欲の低下や中山間地域の維持にも影響を及ぼしている。被害の現状と傾向を確認するとともに、猟友会の高齢化を踏まえた担い手確保や若手ハンター育成、AIカメラ・ICTわな・ドローン等の先進技術の活用、さらにはジビエ利用による地域経済循環の可能性について市の考えを問う。



2 起業支援について

人口減少や若者流出が進む中、地域の活力向上には挑戦する人材を育てる視点が重要である。本市の開業率や創業支援施策の成果を検証するとともに、相談から資金調達までを支援するワンストップ体制の充実、創業拠点整備、若者へのアントレプレナーシップ教育、女性起業家への支援強化など、起業しやすいまちづくりについて市の考えを問う。

3 不登校支援と学校生活相談係について

不登校児童生徒が増加する中、学校生活相談係の設置目的と役割を確認するとともに、欠席や遅刻等の教育データを活用した早期発見・早期支援の取組、LINE等を活用した相談体制の充実について問う。また、保護者支援やフリースクール・オンライン学習との連携を含め、誰一人取り残さない学びの環境づくりに向けた市の方針を問う。

23 山本 治兵衛 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 中学校休日クラブ活動の地域展開について

本年度の2学期から中学校の休日クラブ活動は地域展開として「まいかつ」がスタートする。これまで市が行ってきた実証事業についてはどのような評価をしているのか、また、その評価に基づいて新たな事業を始めるのかなど、様々な視点から課題点と将来構想について問う。



2 舞鶴市の人事について

令和8年の4月1日から新たに参事の職が設けられ任命されたが、人事の目的や経緯等について十分な説明を受けていないように感じる。そこでどのような目的と過程を経て人事となったのか。また、市民への説明を尽くす意味でも市の考えを問う。

3 北陸新幹線舞鶴ルートについて

市は北陸新幹線の舞鶴ルートについて、商工会議所や市議会、市民のサポーター達と誘致に取り組んでいる。市民の期待が高まる一方で整理しておくべき課題もあるように思う。現状の確認の意味も含めて改めて市の認識を問う。

24 尾関 善之 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 電子投票の取組について

電子投票のメリットとして、有権者はタブレット画面に表示されている候補者にチェックを入れるのみで、書くことがないため疑問票がないことなど利便性の向上に加え、開票時間が従来の約半分以下に削減できることから市職員を始め、関係者の皆様の負担軽減につながり、本市が目指す働き方改革、DX推進から鑑みて、電子投票を実施すべきと考えるが、市の認識を問う。



2 少子化対策について

人口減少に歯止めがかからない場合、農業、漁業、産業などに担い手不足、空き家の増加による防災上の問題、治安の悪化、また後継者不足による空家の増加、また身近なところでは、隣組で組織されている、自治会の減少など様々な分野で問題、課題が発生することが予想される。

そこで、少子化対策に関連した様々なアンケートが市によって実施されまた計画が発表されており少子化対策の認識を問う。